

にいがた 畜産協会たより

公益社団法人
新潟県畜産協会

新潟市西区山田字堤付2310-15
全農にいがた第2ビル内
TEL. 025-234-6781
～6783



特集

安全・安心な畜産物を安定的に供給するために
～自衛防疫の推進と飼養衛生管理基準の遵守を～



防疫演習：上越地域



畜産安心ブランド生産農場認証式

防疫演習：柏崎地域

目次

- ◆ 特集「安全・安心な畜産物を
安定的に供給するために」……………(2)
- ◆ 国のTPP対応策と当協会の役割……………(4)
- ◆ 畜産クラスター事業の概要及び進捗状況
……………(5)
- ◆ 平成28年度定時総会を開催 ……………(6)
- ◆ 声のコーナー……………(7)
「畜産の後継者の一人として」
肉用牛経営：佐渡市 仲川龍之介
「就農した経過とこれからの思い」
肉用牛経営：村上市 時田 卓
- ◆ 畜産安心ブランド生産農場だより……………(8)
新発田市：ニイプロ株式会社
- ◆ 6次産業化紹介……………(8)
新潟市北区 ガーデンカフェかものはし
- ◆ 編集後記……………(8)

～自衛防疫の推進と飼養衛生管理基準の遵守を～

年々増える家畜衛生関係事業に細やかに対応するため、今年度から衛生指導課は3名体制で、下記の事業に取り組みます

生産者のための自衛防疫の確立支援

以前から実施してきた定期検査支援に加え、生産者自らが飼養衛生管理基準を遵守し、海外からの疾病や生産性を阻害する慢性疾病に対応すべく衛生対策確立を支援します。

1 防疫演習の実施

今年度も県内3か所で畜産農家等を対象に防疫演習を実施します（佐渡：10月、村上：11月、長岡：11月）。県家畜保健衛生所の獣医師を講師に、海外で続発している口蹄疫等が地域内で発生した場合を想定した時系列対応をシミュレーションし、「何を」「いつまでに」「どうしなければならないか」等を模擬体験し、万が一の発生に備えた訓練を実施します（写真：机上演習）。



2 飼養衛生管理基準の遵守指導支援

今年度、家畜伝染病予防法で定める飼養衛生管理基準の見直しが予定されています。管理基準改正後に畜種毎の啓発説明会を開催します。

併せて、飼養衛生管理基準啓蒙パンフレットを作成し、畜産農家等へ配付し、県内における適切な家畜飼養衛生管理の一層の推進を図ります（今年度のパンフレットは養豚、養鶏用）。

3 豚流行性下痢まん延防止対策

新潟県内においても平成26及び27年に豚流行性下痢（PED）が発生し、特に平成26年は甚大な被害を被った農場が多く見受けられました。平成27年は繁殖飼養農場への獣医師による巡回衛生指導等を実施し、PED発生未然防止に効果がありましたので、今年度も「農場毎の獣医師による衛生指導」や「PED発生繁殖豚供給農場の定期的な検査支援」等を実施する他、PEDまん延防止の講演会を開催し、養豚農場及び関係者が一体となった発生防止、まん延防止を支援します。

4 慢性感染症清浄化対策

(1) 牛白血病清浄化対策

全国的にも感染が拡大しています。

感染拡大を防止するための防虫ネットの設置や初乳加温装置の導入、抗体検査及びリアルタイムPCRによるハイリスク牛のとう汰促進等、県家畜保健衛生所の協力により県内2か所（下越、中越）にモデル農場を設置し、早期の清浄化を支援しています。

(2) 牛マイコプラズマ性乳房炎清浄化対策

20戸の酪農家のバルク乳を材料にマイコプラズマ浸潤状況を調査（PCR検査及び菌分離）し、また、過去にマイコプラズマ性乳房炎が多発した農場の検査を実施し、清浄性維持を支援します。

5 その他の検査等の支援

上記の他に、死亡牛BSE検査やオーエスキー病検査支援を継続中であり、今年度からは牛ウイルス性下痢・粘膜病（BVD・MD）の持続性感染牛（PI牛）のとう汰補助を実施します。

農場HACCPの推進

当初はなかなか耳慣れなかった「農場HACCP」ですが、現在は当協会と公益社団法人中央畜産会の認定事業が同時進行しています。

1 畜産安心ブランド認定事業

平成17年にスタートした「畜産安心ブランド認定事業」は新潟県の実施する“選んで安心「新潟畜産」拡大事業”の安心農場を認定する事業として継続され、10年が経過し、昨年度までに255農場を認定し、県内農場の50%に到達しました。

今年度中に280農場の認定を目指します。

認定農場数と認定率（平成27年12月31日現在）

畜種	乳用牛	肉用牛	豚	採卵鶏	肉用鶏	合計
農場数	84	75	55	22	19	255
(%)	(38)	(65)	(50)	(54)	(83)	(50)

今年度の日程は、①申請書の締め切り（11月11日）、②現地審査（11月中旬～12月上旬）、③認定委員会（12月15日）、④認定証交付・認定農場交流会（平成29年2月中旬）の予定です。



平成27年度認定証交付式
（審査講評を述べられる新潟大学名誉教授楠原征治委員長）



2 農場HACCP認証支援地域強化促進事業

本事業は公益社団法人中央畜産会の委託事業です。中央畜産会を含めた4団体で組織された「農場HACCP認証協議会」が、コーデックスHACCPガイドラインとISO22000を取り入れた農場HACCP認証基準を基に認証を実施しています。平成28年5月末現在の全国の認証農場は82農場（牛：23〈乳12・肉11〉）、豚：38、鶏21〈採卵21〉）です。

また、HACCP認証農場の前段階となる「農場HACCP推進農場」についても指定しており、5月末現在178農場（牛：39〈乳11・肉28〉）、豚：88、鶏：51〈採卵44・肉用7〉）が指定を受けています。

県内では3農場が本認証取得を目指しており、酪農及び採卵鶏農場が平成26年度に推進農場の指定を受けました。

3 農場HACCP取組の意義

実際に農場HACCPに取り組むとどういった点がメリットなのでしょうか？

(1) 農場HACCPの構築の目的

①安全な畜産物を生産する仕組み作り、②農場が発展する仕組み作り：PDCAサイクルの実践、③従業員（HACCPチーム員）が成長できる仕組み作り、です。

(2) 農場HACCPのメリット

①HACCPを取り入れる事により、農場がきれいになり、従業員とのコミュニケーションを図る事が出来ます。②注射針や家畜の観察など、より飼養衛生管理基準の遵守につながります。③定期的な獣医師や家畜保健衛生所の関係機関からの情報がスムーズに入手出来ます。④農場に合った衛生プログラムにより、衛生意識が向上し、衛生管理システムの構築が出来ます。⑤何よりも経営者、従業員の経営意欲が増します。結果として生産性向上につながります。

国のTPP対応策と当協会の役割

TPP（環太平洋経済連携協定）交渉は、平成25年7月に日本が参加してから2年余りを経た平成27年10月5日に大筋合意がなされました。

この大筋合意を受けて、政府は「TPP関連政策大綱」をまとめましたので、畜産関係分野を抜粋して掲載するとともに、当協会が実施可能なTPP対応策を紹介します。

① 攻めの農林水産業への転換（体質強化対策）

○ 次世代を担う経営感覚に優れた担い手の育成

農業者の減少・高齢化が進む中、今後の農業界を牽引する優れた経営感覚を備えた担い手を育成・支援することにより人材力強化を進め、力強く持続可能な農業構造を実現する。



個別支援指導（畜産コンサル）等の充実

現在、主に就農して間もない後継者を指導対象として実施している。

今後も担い手を中心に受診者の発掘を行って畜産コンサルを実施するとともに、経営発展のためのセミナー開催、ホームページ等での情報発信など一層の充実化を図る。

仲間づくり支援の強化

畜産に携わる若い世代の女性同士の交流により事業展開等を学ぶ「畜産女子会」については、現在は県内の女性のみで実施しているが、今後は全国の女性と交流できるようなネットワークを構築して充実化を図る。



○ 畜産・酪農収益力強化総合プロジェクトの推進

省力化機械の整備等による生産コストの削減や品質向上など収益力・生産基盤を強化することにより、畜産・酪農の国際競争力の強化を図る。



畜産クラスター事業への取組

※次ページの畜産クラスター関連記事参照

○ 消費者との連携強化

消費者の国産農林水産物・食品に対する認知度をより一層高めることにより、安全・安心な国産農林水産物・食品に対する消費者の選択に資する。



畜産理解への各種取組

国産畜産物について正確な情報を提供するための県民公開講座や料理教室の開催、畜産ふれあいイベントの充実等を図る。

② 経営安定・安定供給のための備え

国産の牛肉・豚肉、乳製品の安定供給を図るため、畜産・酪農の経営安定対策を以下のとおり充実する。

- ・ 肉用牛肥育経営安定特別対策事業（牛マルキン）及び養豚経営安定対策事業（豚マルキン）を法制化する。
- ・ 牛・豚マルキンの補填率を引き上げるとともに（8割→9割）、豚マルキンの国庫負担水準を引き上げる（国1：生産者1→国3：生産者1）。
- ・ 肉用子牛保証基準価格を現在の経営の実情に即したものに見直す。



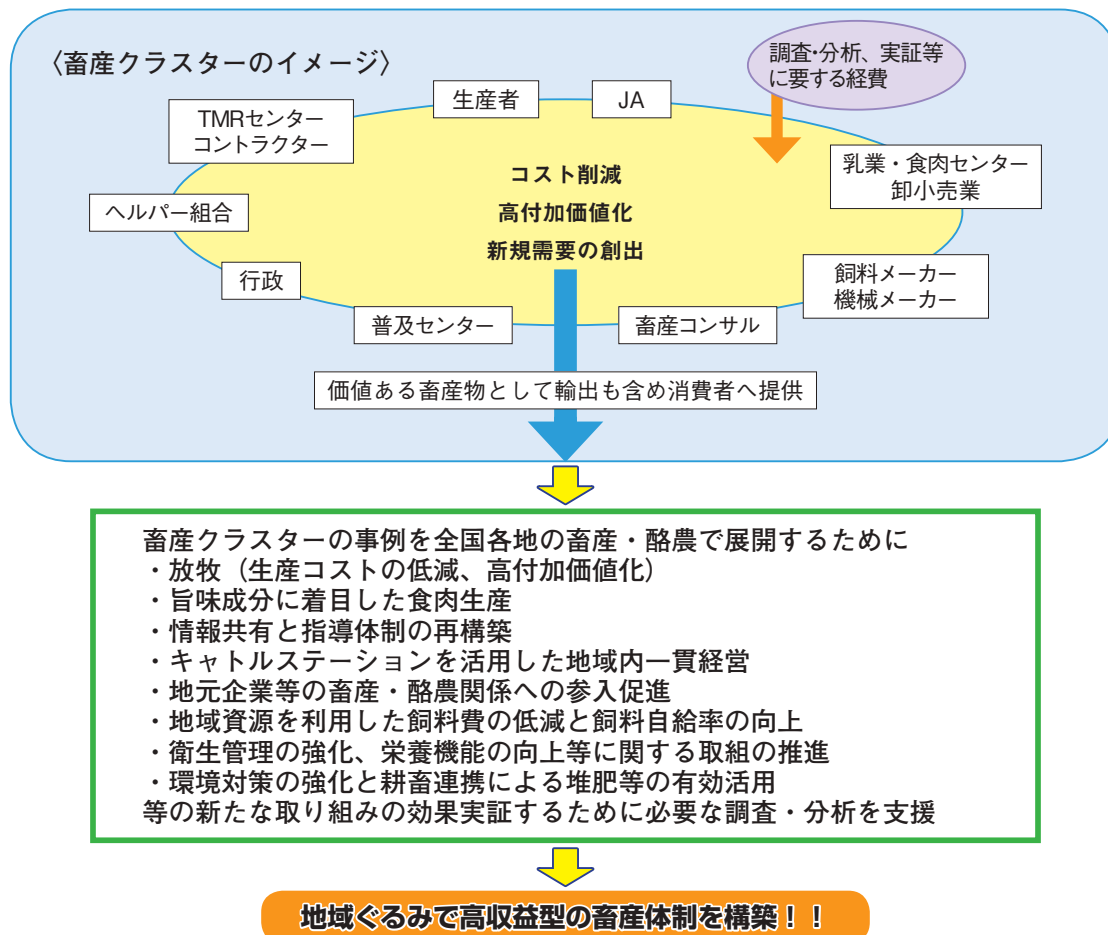
畜産物の価格変動により生ずる畜産経営体の損失を補填する事業の適正執行

現在、事業を実施している牛マルキン及び肉用子牛生産者補給制度については、TPP発効後も引き続き当協会が事業を実施する場合、事業を適正かつ円滑に執行する。

畜産クラスター事業（畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業）の概要及び進捗状況

1 畜産クラスターとは

畜産経営体をはじめ、地域の関係事業者が連携・集結し、地域ぐるみで高収益型の畜産を実現するための体制のことです。



2 当協会の業務内容

- (1) 新潟県畜産振興クラスター協議会（構成団体：8団体）の事務局業務
 - ・協議会総会及び運営会議等の開催
 - ・畜産クラスター計画の作成・変更
 - ・中心的な畜産経営体の認定
 - ・構成団体からの事業参加要望書及び申請書の取りまとめ
- (2) 機械導入事業における基金管理団体（公益社団法人中央畜産会）の新潟県内の窓口団体業務
 - ・事業の推進
 - ・事業参加要望書等の取りまとめ及び提出
 - ・新潟県との協議に係る窓口業務
 - ・事業の執行に係る連絡・調整、データ整理及び調査

3 当県における平成28年度事業の進捗状況

- (1) 第1回目：補助金配分予定額決定済み（取組主体数5）→事業参加申請手続き中
- (2) 第2回目：要望調査実施→事業参加要望書提出済み（取組主体数28）
- (3) 第3回目：実施の有無は未定

平成28年度定時総会を開催

平成28年度定時総会を平成28年5月27日に新潟市西区の全国農業協同組合連合会新潟県本部で開催しました。議事内容は下記のとおりです。

1 議事の経過

出席会員数

正会員63名中、本人出席17名、書面出席46名の全員出席により、平成28年度定時総会が成立。

会長挨拶

出席会員と来賓に謝意。前会長柳澤武治氏の逝去に哀悼の意を表し、熊本地震について畜産被害は甚大であり、一日も早い復興を祈ると述べた。上程する各議案に対し慎重審議をお願いし挨拶とした。

新潟県農林水産部目黒部長祝辞

当協会が新潟県の畜産振興に大きく貢献していることに謝意を述べた。肥育素牛価格の高騰などにより生産コストが上昇し経営を圧迫している中、県としても様々な支援をしているが、最近は飼料用米を使用することでコスト低減につながると考え、農家が飼料用米を使用できるよう施設整備等の支援を行っているのでこのような制度を活用してほしいと述べた。当協会と会員の健勝を祈念して祝辞とした。

議事録署名人の選任（2名）

- ・新潟県農業信用基金協会
理事・事務局長 高橋 勝彦氏
- ・新潟県動物薬品器材協会
会長 星 俊夫氏

提出議案

- 第1号議案 平成27年度事業報告及び収支決算報告について
- 第2号議案 役員改選について
- 第3号議案 公益社団法人新潟県畜産協会定款の一部変更について

附帯決議

2 結果の概要

(1) 第1号議案「平成27年度事業報告及び収支決算報告について」

公益目的事業4事業とその他事業3事業の実施状況及び決算の概要について説明。

(2) 第2号議案「役員改選について」

会員から応募、推薦のあった理事候補者12名、監事候補者3名全員が選任された。なお、総会終了後に開催した理事会で会長、副会長、専務理事を互選した。

【新役員】

役名	氏名	備考
会長	今井長司	
副会長	小林則幸	
専務理事	阿部悟	
理事	山口和茂	
理事	桑原隆	
理事	五十嵐正美	
理事	五十嵐孝	新任
理事	小林辰一	
理事	楠原征治	
理事	上村憲司	
理事	石山正博	新任
理事	青木克明	
監事	鈴木金次	
監事	齋藤孝夫	
監事	齋藤秀雄	

(3) 第3号議案「公益社団法人新潟県畜産協会定款の一部変更について」

◇総会の開催

総会は、定時総会を毎年度5月に1回開催するほか、3月及び必要がある場合開催していたが、運営経費の節減と会員の出席に要する負担の軽減を図るため、定時総会を毎年度6月に1回開催するほか、必要がある場合に開催することに変更した。

◇事業計画及び収支予算

事業計画及び収支予算について、関連書類は毎事業年度の開始の日の前日までに会長が作成し、理事会の承認を経て総会の承認を受けなければならないとしていたが、今後は、関連書類は3月末までに理事会の承認を受け、定時総会に報告することに変更した。

(4) 附帯決議

本総会中の軽微な事項の修正等を会長に一任

○各議案とも出席者全員の挙手と書面による全員の賛成を確認。



定時総会の様子



肉用牛経営

佐渡市金井新保
仲川龍之介



肉用牛経営

村上市中野
時田 卓



『畜産の後継者の一人として』

私の家では和牛子牛の繁殖と稲作の複合経営を父と弟としています。幼少期から父の影響により牛の仕事に触れる機会が多く、子牛市場にもよく参加していました。そんな私に周囲の方々も畜産後継者として期待し、当初はあまり乗り気でなかった私でしたが、高校を卒業して夢や目標の無かった当時の自分は、とりあえず牛の仕事なら手伝いで慣れているから楽だろうという、とても安易な考えで始めたのでした。

しかし、本格的に畜産の仕事始めて一年から二年目はそんな私の甘い考えとはほど遠い大変な作業の連続でした。春は米の苗を作り田植えをし、梅雨の前の晴が続く日は牧草を乾燥させてロールにし、さらに牧草のサイレージを作る。夏はホールクロップのサイレージを作り、稲の乾燥ロールも作り、秋になれば稲刈りやワラを取り、また来年のための牧草の種蒔きと、一年中ほとんど休みなしのとても大変な仕事だったのです。

予想以上の仕事のつらさに心折れそうになりながらも一年、二年と続けていくうちに体も慣れて体力もつき、知識も少しずつついてきて、今では父の代わりに一人で仕事を任される事が増えて自信もやっと生まれてきました。それでも私はまだまだ甘く未熟であり、仕事を続けるほど父や周りの畜産関係者の先輩方の偉大さを感じる次第です。

近年指導して下さる皆様のお陰もあり、我が牛舎からもスーパー佐渡牛の認定牛が誕生しました。やはり自分達の努力の結果が出てくるのは嬉しいですし、やる気も湧いてきます。最近の子牛価格もかつて無い程に上昇し、繁殖農家にとっては追い風の状況ですが、高齢の農家の方々が毎年少しずつ辞めているのも事実です。私達も以前より少しでも仕事の効率を上げるため作業の無駄を減らし、畜産経営を長く続けていくための努力を始めていますが、それでも私達だけでは駄目でしょう。だからこそ新しい若い世代の後継者が必要になってきています。その為に私ができる事として、よい子牛を市場に出品し、新潟や佐渡にもよい和牛が生み出せる事をアピールし、微力ながらも畜産後継者の一人として新潟の畜産を私と同じ若い世代の方々に魅力的に映るよう努力していきたいと思っています。

『就農した経過とこれからの思い』

「将来は、お前たち三人で家の農業をやればいいじゃないか！」と子供の頃、父に言われた言葉を記憶しています。私は、三兄弟の末っ子に生まれ、一般的に末っ子は可愛がられて育つと言われていますが、それらしき記憶もなく学生時代から農繁期は当たり前のように、牛に関しては日常的に手伝っていました。三兄弟ともに父の思い通り農業大学校に送られ、大規模農場構想が着々と進められてきましたが、兄たちは卒業後しっかり就職し、私が卒業を迎えたときはこのままでは社会の波にのれないまま就農・・・と、なるどころでしたが父もまだ50代。この程度の規模で就農するほどでなかったので他産業の道へ進みました。しかし、三年程前、遂に「どうする。この家の百姓は・・・」と父が言い始めたことから家内会議を行い、その結果やっぱり私が・・・覚悟を決めてこの世界に入りました。

最初は父と一緒に、いわゆる作業員として仕事をしました。父のやり方や日々無計画な作業は、勤めに出ている私にとって精神的にも肉体的にも辛いことでしたが、年々の営農サイクルは決まっていますので、自分から段取りをしながら作業に取り組めるように父との意見の相違がありながらも努力してきました。一年前、父が仕事に携われない体となったことから、一人で牛と水稲の管理をすることとなりました。それまでは二人で作業しながら分担して行ってきたことが全て一人での作業となり、そこで父の今までの苦労がやっと分かってきました。今、農業は大きな転換期を迎えています。水稲では、生産数量配分の廃止。畜産では、飼料価格の高止まりや素牛価格の急激な高騰により、経営収支が厳しく、夢と希望を抱いて就農したというのに先が暗いです。でも、人間生きていくためには必ず「食」は必須です。私の生産する米や牛肉はほんの少しですが地域の皆さんと力を合わせ他産地より一歩リードする安心安全で顔の見える農畜産物の生産に励んでいきたいと意気込みは人一倍あるつもりです。覚悟を決めて始めた農業。向かう先には苦労や困難は多々あると思いますが、いつかは「クラウン」のように目標「〇〇〇」と設定し頑張ります。

畜産安心ブランド生産農場だより

新発田市：ニイプロ株式会社

ニイプロ株式会社は日本ハムグループの一員として、本社が新発田市（旧紫雲寺町）の日本海沿いに位置し、肉用鶏を育成肥育する生産部門と、鶏を食鳥処理加工する製造部門を兼ね備えた業務を行っている会社です。

生産農場は新潟県、山形県に直営農場が8ヶ所、秋田県を入れた3県に契約農場23ヶ所を有し、うち新潟県内の全11農場がクリーンチキン生産農場に認定されています。農場は種鶏場から導入した初生ヒナを概ね50日間育成肥育し出荷します。銘柄鶏として、ハーブやよもぎ粉末を飼料に配合し肥育した鶏を「越の鶏」として販売し、高い評価を得ています。

各農場は衛生対策に重点を置き、特に直営農場ではシャワーイン、鶏舎毎の長靴の履き替え等を行い、家畜伝染病の侵入防止に万全を期しています。

製造部門は本社に隣接し、現在年間約600万羽を処理加工する大規模処理施設で、食品の安全と品質を確保するための国際認証システムであるSQF（Safe Quality Food/安全で高品質な食品）方式を導入し、「食べる喜び」を基本のテーマとし、「品質、サービスを通じて、楽しく健やかな暮らしに貢献する」ことを使命としています。

現在、下越地域に大規模農場の新設が始まり、生産体制の強化、工場の設備拡充を図り、さらに安全・安心な肉用鶏の生産供給に心がけています。



6次産業化紹介！

■ おしゃれな“豚肉料理”と“お庭”の店
ガーデンカフェかものはし

畜産農家レストランや、ジェラートなど畜産物の加工販売・・・県内にはいろいろな畜産農家の6次産業化の事例があります。今回はそのひとつ、新潟市北区島見町の住宅地の一角にある、お庭がすてきな豚肉料理の店「ガーデンカフェかものはし」をご紹介します。

オーナーは、和田小百合さん（旧姓：近藤さん。最近結婚されました！）。実家のブランド豚「甘豚」を使った豚肉料理を提供しています。



店を開いたきっかけは、「いろいろなおいしさの甘豚を多くの人に味わってほしいから」。その思いのとおり、豚肉料理は定番メニューの他、日替わりメニューも提供されていて、行くとたびに違った味が楽しめます。盛り付けにもこだわっていて、とってもおしゃれ。中でもおすすめは、甘豚と多種類の野菜を使ったスープカレーで、和田さん自慢の一品です。

また、店のもうひとつの特徴は、窓の外に広がる庭。和田さん自らがガーデニングしているこの庭には、いろいろな草花が植えられていて、季節によって違う顔を見せてくれます。

「ぜひ甘豚料理とガーデニングを楽しみに来てください！」と和田さん。きれいなお庭を眺めながら、おしゃれでおいしい豚肉料理を堪能してはいかがでしょうか？



編集後記



「今年の夏は暑い！」との予報ですが、「今年の新潟はアツイ！」。新潟県人は実直で優しいが、積極性に欠けPR下手と言われていました。別に現状が満足なので宣伝をする必要がなかっただけで、実は凄いパワーのあることが最近わかってきました。それは「応援力」です。J2へ落ちこちそうで落ちこちないアルビはホームでの応援はもちろんのこと、アウェイでも絶えない応援。AKB総選挙の全国一の視聴率とNGT48への応援。

応援とは相手に対する気遣いです。相手の立場に立って考えることの出来る優しい気持ちです。そう新潟県人は気遣いのできる気持ちの優しい県民だったのです。

応援と言えば、当協会の「にいがた畜産協会だより」も今年度からオールカラーで内容一新、精鋭スタッフを揃え応援態勢を整えています。特集の「安全・安心な畜産物を安定的に供給するために」はいかがでしたか？今後とも自衛防疫体制を確立し、飼養衛生管理基準を遵守し、「農場HACCP方式」の取組等、生産性を向上させる業務を推進します。当協会は、頑張っている人、これから頑張る人を今後とも応援します。今年の夏に負けない熱い、篤い、厚い思いを応援します！（中林 記）